

図 1.13(2) 潮流楕円の比較 (太実線：計算値、細実線：観測値)

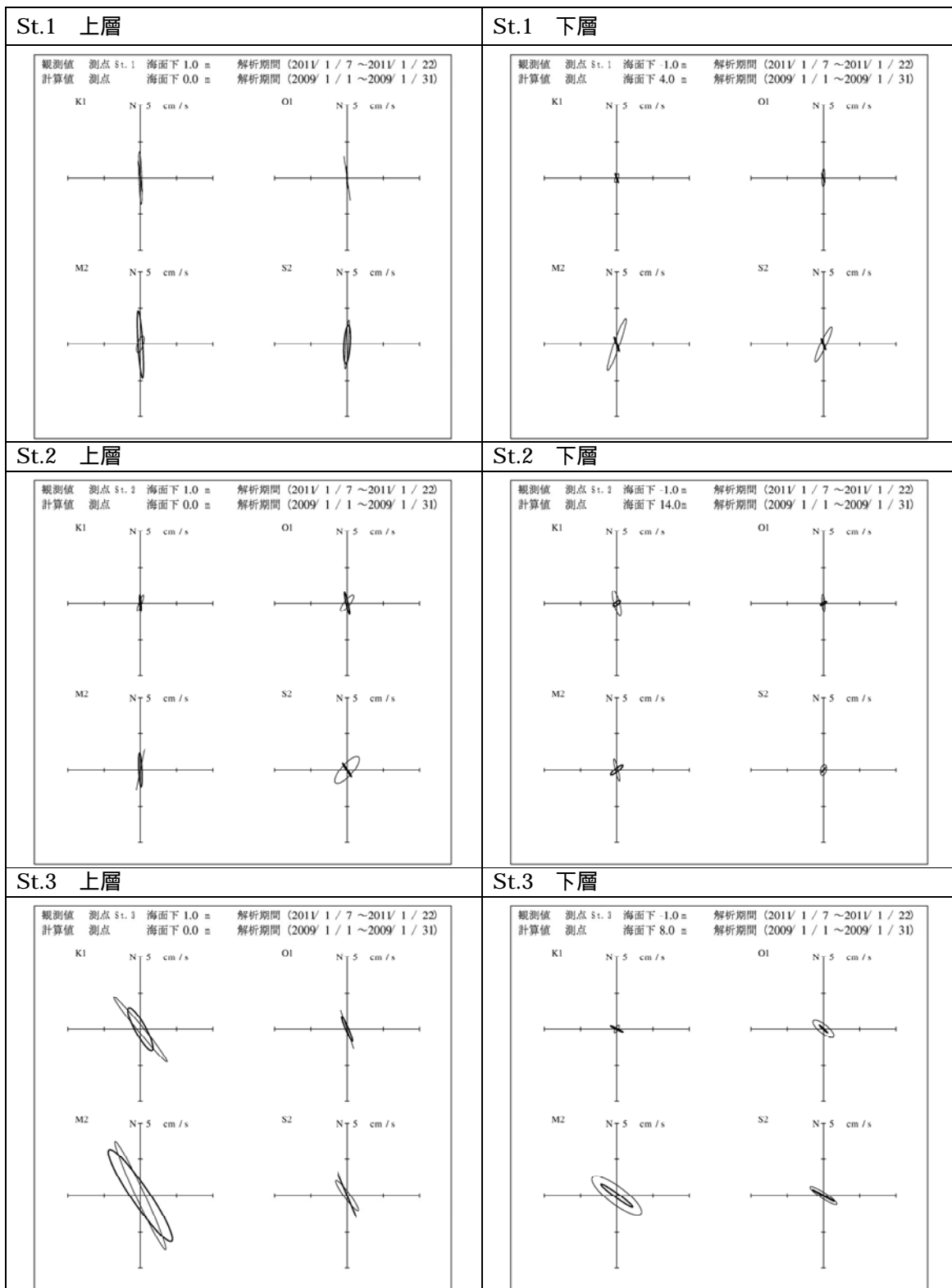


図 1.13(3) 潮流楕円の比較 (太実線 : 計算値、細実線 : 観測値)

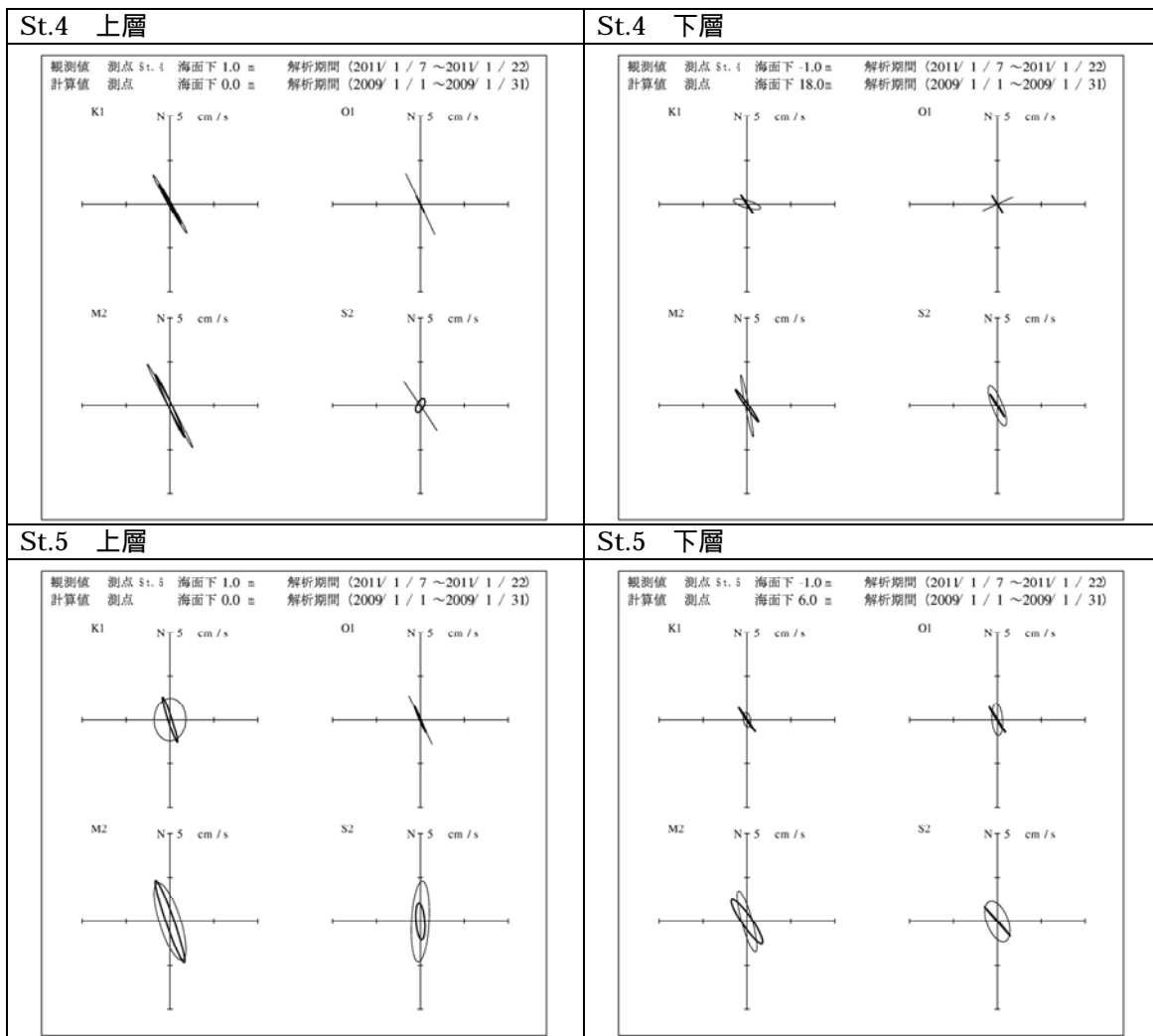


図 1.13(4) 潮流楕円の比較 (太実線：計算値、細実線：観測値)

## (2) 平均流

2010年10月および2011年1月に実施した15昼夜連続観測結果で得られた期間平均流の分布は図1.14に示す結果となっており、2010年10月では大局的にみると上層で流出、下層で流入する鉛直循環がみられている。一方、2011年1月の上層では、冬季季節風（北風）が連吹しているため、2010年10月よりも顕著な流出する流れとなっている。下層では、東湾で流入する流れ、西湾ではSt.2で上層と同様に流出する流れ、湾口に近いSt.3で流入する流れとなっており、2010年10月とは異なる傾向を示していた。

2008年を対象とした計算値については、2008年10月の平均流の分布を図1.15、2009年1月の平均流の分布を図1.16に示す。

計算結果の平均流分布は、下記に示すように上層流出、下層流入の鉛直循環がみられており、2008年10月とくらべて2009年1月の流出傾向が顕著となっているなどの観測値の傾向を良く表現していると考えられる。

### ● 2008年10月の計算結果

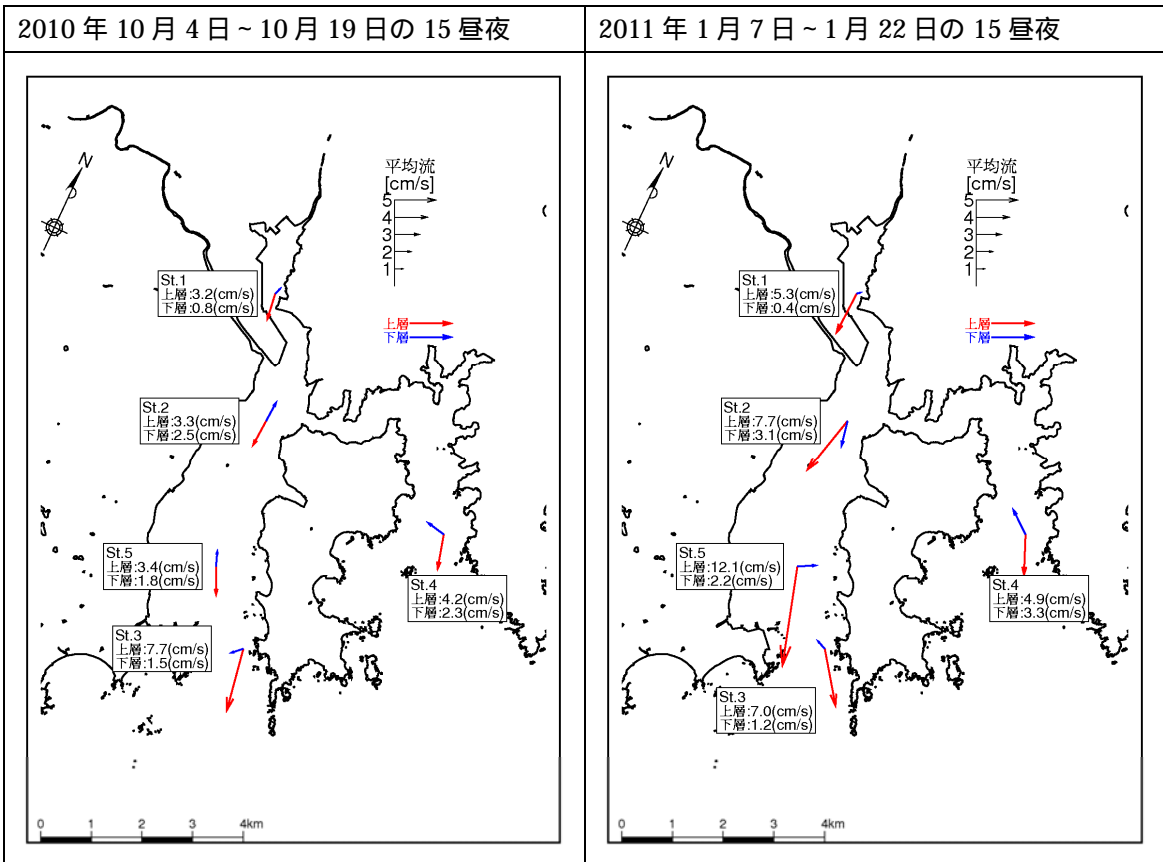
この結果をみると、第1層(0~2m)は湾全域で流出する流れとなっている。第2層(2~4m)では湾奥では流入する流れに転じ、湾口部では第1層と同様に流出する流れとなっている。

気仙沼湾の西湾をみると、概ね第5層(8~10m)までが湾奥と湾口が繋がっており、第3層よりも下層では、概ね流入する傾向となっているが、第5層では東湾から西湾に流入する流れがみられている。気仙沼湾の東湾では、大局的にみて上層流出、下層流入の鉛直循環となっているが、第3層(4~6m)~第8層(14~16m)はやや複雑な流れの様子となっている。

### ● 2009年1月の計算結果

この結果をみると、第1層(0~2m)は湾全域で顕著な流出する流れとなっている。第2層(2~4m)では西湾の湾奥で流入する流れに転じ、湾口部では第1層と同様に流出する流れとなっている。東湾では第1層と同様に流出する流れとなっている。

第3層(4~6m)より下層では、西湾で流入する流れとなっている。東湾では、第4層(6~8m)よりも下層で流入する流れとなっている。第5層(8~10m)および第6層(10~12m)では、東湾から西湾に向かう流れとなっている。また、西湾の下層の第6層(10~12m)および第7層(12~14m)をみると、湾奥方向への流れとなっている。



地点	全水深(m)	上層	下層
St.1	9.4	海面下1m	海底上1m
St.2	15.0	海面下1m	海底上1m
St.3	15.5	海面下1m	海底上1m
St.4	24.0	海面下1m	海底上1m
St.5	8.6	海面下1m	海底上1m

図 1.14 平均流 (観測値)

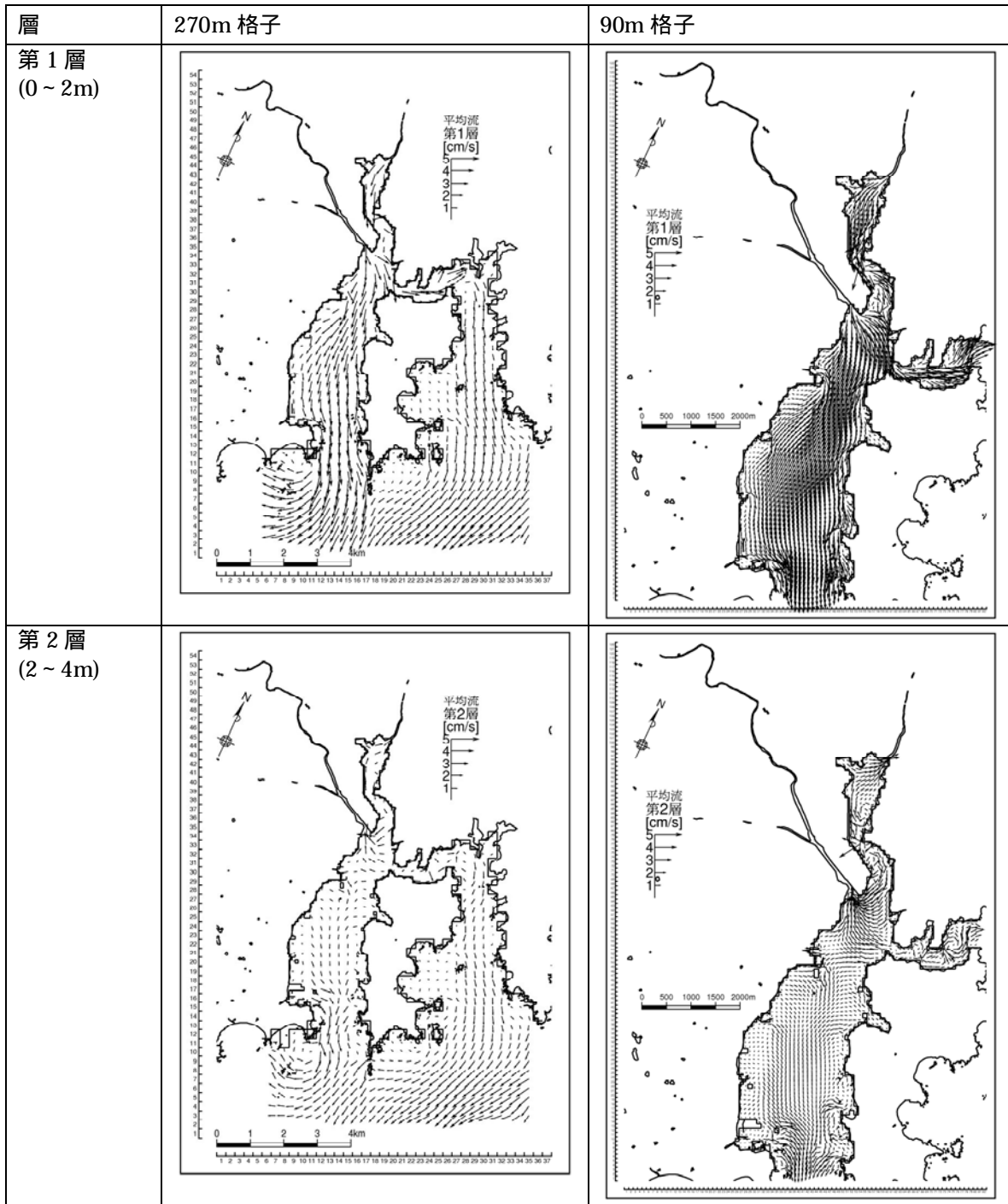


图 1.15(1) 平均流 (2008 年 10 月の平均)

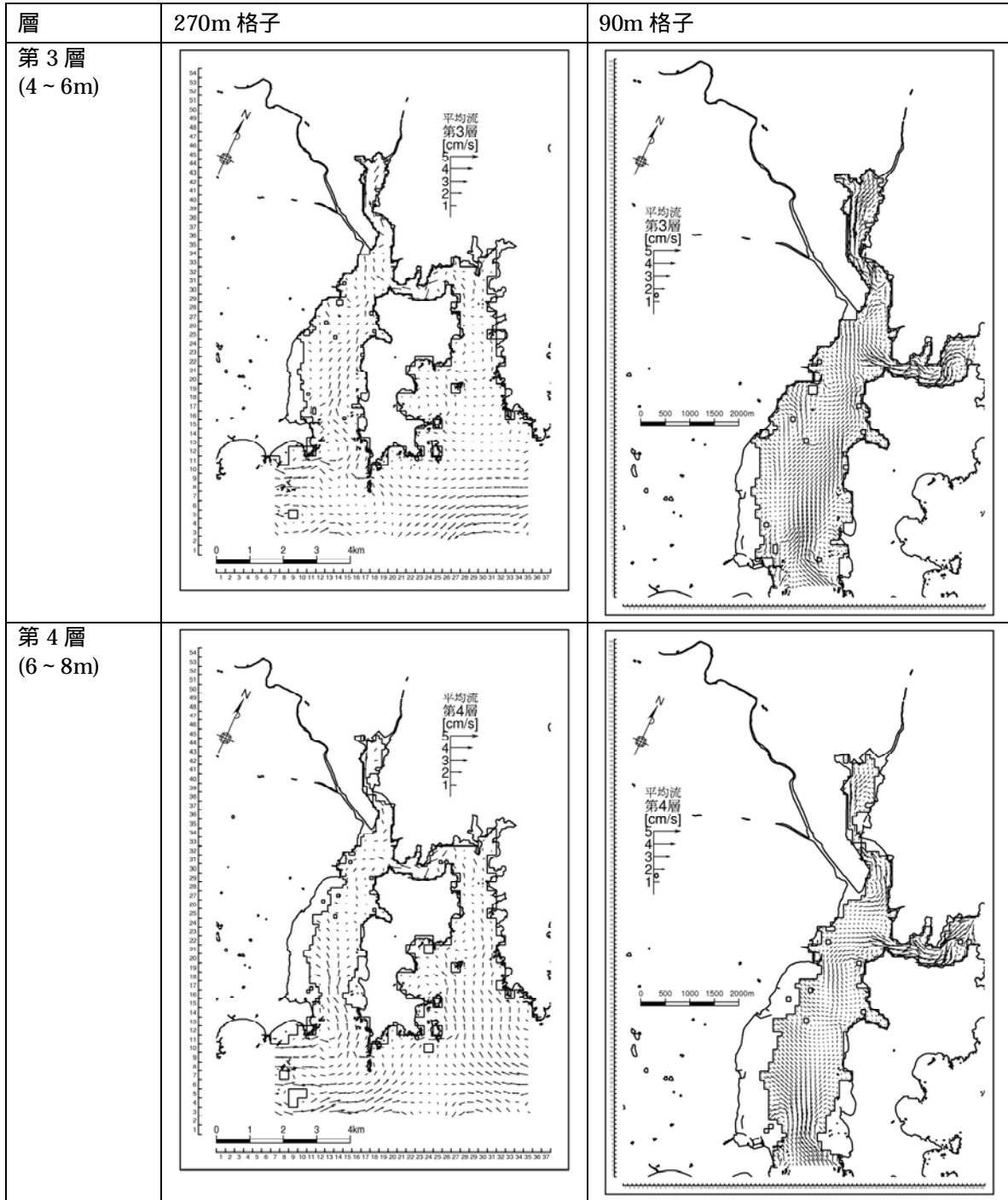


図 1.15(2) 平均流 (2008年10月の平均)

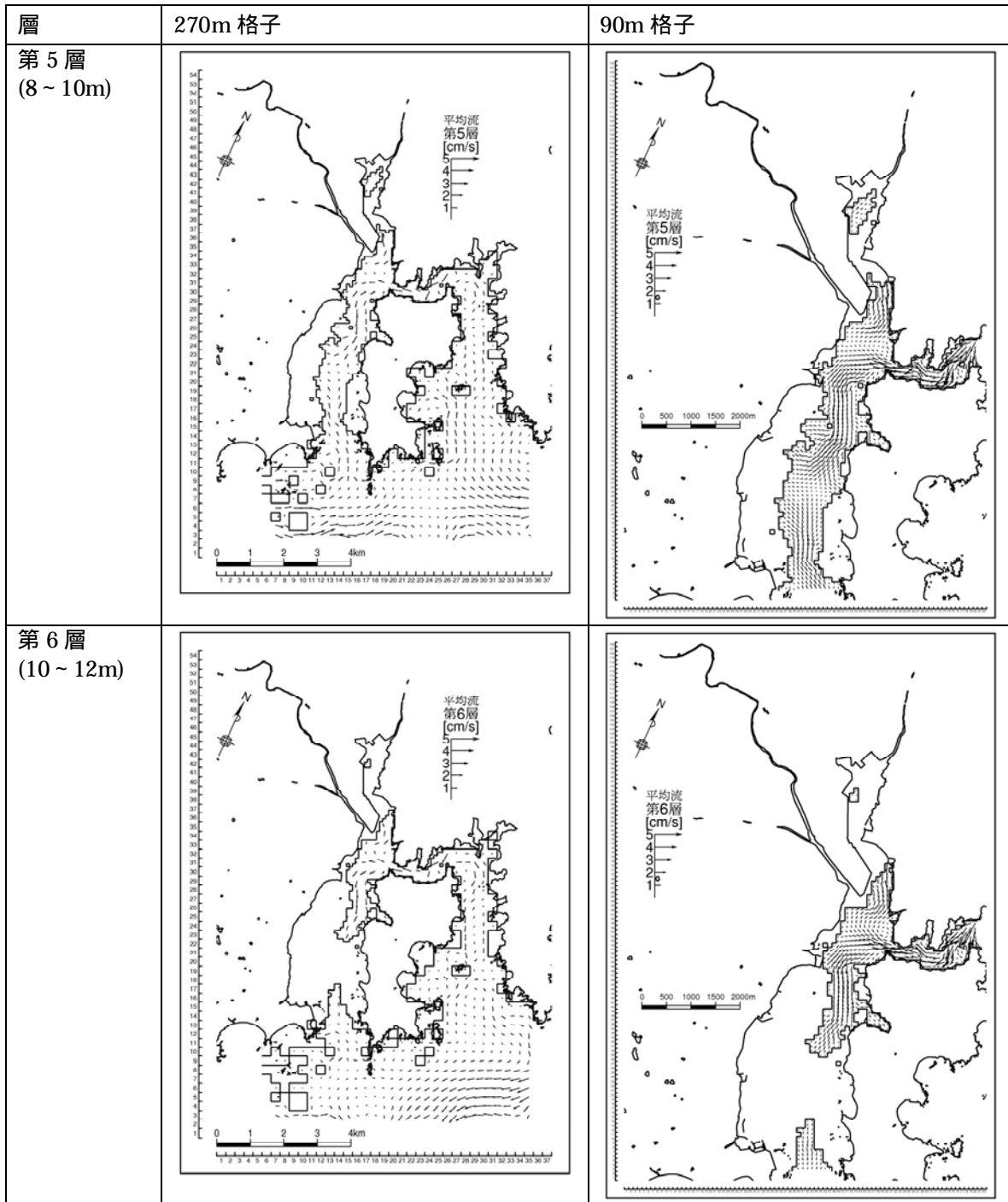


図 1.15(3) 平均流 (2008 年 10 月の平均)